

障がい者マリンアクティビティネットワーク事業
エビデンス調査 報告書

2021年10月

一般社団法人 日本体験教育研究所



目 次

研究の要約 P3

マリンアクティビティ参加に関するアンケート結果報告 P4

マリンアクティビティ指導に関するアンケート結果報告 P9

研究の要約

障がい者マリナクティビティを普及・促進していくためには、指導者・参加者双方にとってのモチベーションとなるようなメリットがあることが重要であるとの考えのもとに、アンケート項目を検討し、質問紙を作成した。指導者に対しては、指導して感じたことや、得られたもの。参加者に対しては、参加して感じたことや、得られたものについて調査した。

5件法による量的な質問への回答の結果から、障がい者マリナクティビティの指導者・参加者ともに高い満足や大きなメリットを感じていることが明らかになった。その具体的な中身について、自由記述の分析をもとに検討する。

指導者においては、自由記述の結果からもわかるように、第一義的には、障がいのある参加者をサポートすることで喜んでもらえるという点に大きなやりがいを感じていることが明らかになった。マリナクティビティの指導においては、参加者が健常者であっても、指導者には高い技術やそれを的確に伝えるコミュニケーション能力等が要求されることはいうまでもない。そして、参加者が何らかの障がいを有している場合には、その技術、能力を前提としながら、障がい特性に合わせた臨機応変な対応や、体温管理や身体介助等、さまざまな配慮が求められる。その結果、副次的な効果として、指導者は障がいのある参加者への指導を通して、障がい及び障がい者に関する理解を深めるとともに、相手の心を推し測りながら、わかりやすくコミュニケーションを取る技術、機材の扱いや相手に合わせて指導する力等、指導者として求められるさまざまなスキルを、総合的に高めることができていると考えられる。故に、障がい者マリナクティビティは、指導者にとっては、やりがいや満足感が得られると共に、自らのスキル向上にもつながるものであると考えられる。

参加者においては、参加の動機としては、障害があっても参加できるマリナクティビティを楽しみたい、というレジャー目的が多数を占めていた。そして参加した結果、マリナクティビティを通じた人や自然との触れ合い、あるいはそれによる精神の高揚が印象に残ったと多くの参加者が述べており、レジャーとしての機能を十分に果たしていると考えられる。それだけにとどまらず、多くの参加者が、マリナクティビティに参加したことによって自身の視野が拡がり、日常生活においてもさまざまなことに挑戦する気持ちや自信が湧いたと述べていることから、マリナクティビティが参加者にとって、単なるレジャーを超えて、個々の人生における自己実現に結びつくものとなる可能性が示唆された。

このように、障がい者マリナクティビティは、指導者・参加者双方にとって満足感を得ながら、さまざまなメリットを得られるものであり、今後のますますの発展が指導者、参加者及び参加者の家族から期待されている取り組みであると言える。

マリナクティビティ参加に関するアンケート結果報告

目的

本アンケート調査の目的は、障がいのあるマリナクティビティ参加者が、活動を通して感じたことや受けた影響について明らかにすることである。

方法

1. 調査対象者：マリナクティビティに参加した障がい者または（本人の回答が困難な場合）ご家族計 28 名（男 12 名、女 13 名、不明 2 名）
2. 調査時期：2020 年 8 月～2021 年 9 月
3. マリナクティビティ参加者に協力を依頼し、個別にアンケート用紙を配布し実施した。
4. 調査項目：5 件法（1：当てはまらない～5：当てはまる）による質問 14 項目及び自由記述による質問 7 項目からなる質問紙を用いた。詳細は資料のとおり。

質問項目	平均値	標準偏差	n
1.マリナクティビティに参加することに喜びを感じた。	5.00	0.00	27
2.今後、障がいのある人のマリンスポーツは広がると思う。	4.41	0.83	27
3.マリナクティビティをとおしてあなた自身に成長があった。	4.44	0.70	25
4.またマリナクティビティに参加したいと思う。	4.96	0.19	27
5.指導者の人と十分にコミュニケーションが取れた。	4.81	0.47	27
6.参加するうえで、自身の家族や引率者と連携・情報共有ができた。	4.48	0.92	27
7.普段からあなたが大切にしている想いや、考え方を周囲（指導者・一緒に参加した仲間）に伝えることができた。	4.48	0.74	27
8.参加したことで、普段から抱えている悩みや不安が改善された。	3.92	0.83	26
9.参加したことで、自分に自信を持つことができた。	4.42	0.63	26
10.今回の経験をきっかけに、今後は活動範囲が広がりそうである。	4.62	0.56	26

11.今回の経験を他の障がいのある人にも伝えたい。	4.85	0.45	27
12.マリナクティビティの体験で困ったことがあった。	2.42	1.47	26
13.マリナクティビティで困ったことがあった場合、自身で解決できた。	3.36	1.30	22
14.マリナクティビティに取り組む意義があった。	4.89	0.42	27

比較的平均点が低かった項目として、8、12、13が挙げられる。質問項目8については、アクティビティそれ自体の体験を楽しんでいたとしても、必ずしも普段から抱えている悩みや不安が完全になるわけではない（一定程度、改善される）ことが推察される。質問項目12からは、マリナクティビティの体験に置いて困ったことは多くなかったこと、また質問項目13からは困ったことがあった際には周囲のサポートも受けながら解決したことが推察される。

次に、自由記述の質問への回答について検討する。自由記述については、回答の内容をカテゴリに分類し、分析を行った。各質問において得られた主なカテゴリを、回答した人数が多かった順に以下に示す。

表2 質問項目と得られた主なカテゴリ

<p>Q1.今回マリナクティビティに参加した目的はどのようなものでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レジャー」10件 ・「障がいがあってもできることを知り参加」7件
<p>Q2.その目的は達成できましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「達成できた」22件
<p>Q3.今回、マリナクティビティに参加して良かったと思うことはどのようなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界が広がったこと」9件 ・「人との触れ合い」7件 ・「自然との触れ合い」7件 ・その他、「疼痛軽減」や「障害を忘れて過ごせた」各1件
<p>Q4.今回のマリナクティビティ体験はあなたの今後の生活に何か影響を与えそうですか。また、それはどのような影響ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「挑戦する意欲」11件 ・「自信の向上」2件

<ul style="list-style-type: none"> ・「人に甘える勇気が湧いた」「家族愛が深まった」各1件
<p>Q5.今回の体験で心に残ったエピソードはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人との交流」7件 ・「景色や自然」7件 ・「マリンアクティビティ自体」5件 ・「体験中の心の動き」2件
<p>Q6.マリンアクティビティ会場までの「交通手段」について困ったこと、希望や要望はありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特になし」7件 ・「空港からの距離」3件 ・「移動交通手段」3件 ・「車いすでの移動（道のがたつき）」2件 ・「移動の費用」1件
<p>Q7.「利用施設」について困ったこと、希望や要望はありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特になし」10件 ・「落下防止の簡易ベッド柵」2件 ・その他、「玄関入口の段差」、「道の舗装」、「風呂用の車椅子」、「階段の手すり」、「エレベーター」、「買い物できる場所」、「トイレ」、「更衣場所」、「休憩所」、「車いす対応の食事処」、が整備されていると良いとの希望・要望があった。
<p>Q8.その他、参加する上で困ったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特になし」9件 ・その他、「できる限りの情報提供」、「施設が増えてほしい」「障害をもつ方が少しでもきつくない姿勢・方法があるとよい」との意見があった。

次に、各カテゴリごとの主な回答の内容を記す。

Q1「レジャー」

- ・広く綺麗な海で魚と遊びたい
- ・日常を忘れて仲間と楽しむこと。

Q1「障がいがあってもできることを知り参加」

・ずっと参加したかったのですが、色んなハードルがあり諦めていました。サポートして下さる団体との出会いで叶いました。

・普段体験することが難しいマリンアクティビティを体験したいと思い参加することを決めました。

- ・障害を持つ弟に体験してもらい、可能性、奄美を満喫してほしかった。

Q2「達成できた」

- ・皆さんのおかげで楽しい体験ができました。

- ・達成できました。

Q3「世界が広がったこと」8件

- ・ウェットスーツを着ることすら不可能とってたので、そこをクリアしただけで介助があれば海の世界が楽しめるんだと世界が広がりました。

- ・最初は怖かったけれど改造車のおかげで怖いのもなくなり知らない世界を見て知れてとても良かった。

Q3「人との触れ合い」

- ・海に入れて良かった！というだけではなく、またあのスタッフさんに会いたいなど人と人とのつながりができたことです。

- ・久しぶりにたくさんの同じ思いの人と笑い会えたこと。

- ・家族全員で楽しみを共有できたこと。

Q3「自然との触れ合い」

- ・水の輝きや風、たくさんの植物を見ることができて自然の豊かさを感じる事ができました。

- ・今まで見たことのない景色が見れ、体験したことのない感覚を体感できた。

Q3「その他」

- ・疼痛軽減効果の確認ができた。

- ・水中にいる間は障害を忘れて過ごすことができました。

Q4「挑戦する意欲」

- ・マリニアクティビティにチャレンジするまでは、勇気が必要でした。チャレンジした事によって、よりレベルアップした事にチャレンジしたいと思えるように変化した。

- ・障害の有無が必ずしも生活や余暇活動に制限を加えるものではないと知った事により、未体験の事柄への挑戦することを前向きに検討するようになった。

Q4「自信の向上」

- ・「やって出来ないことはない」と言う自信。

- ・障害の見た目に自信がもてました。

Q4「人に甘える勇気が湧いた」

- ・助けてもらえば出ることがあるので、人に甘える勇気も必要。

Q5「人との交流」

- ・海に初めて入ったとき、不安そうだった本人の表情がぱっと明るくなったのも嬉しかったのですが、周りでサポートをしてくれていたボランティアさん達の顔と一緒にばあっと明るくなり、笑顔が連鎖していったことが印象に残っています。

一緒に喜んでくれているのが表情に表れていて、思い出したら涙が出そうになります。

- ・スタッフの方が全力で力になるので安心してくださって言ってくださって涙が出ました。

Q5「景色や自然」

- ・海がとても綺麗で、特に海中で船の陰が見えて感激しました。
- ・珊瑚や魚を直接見ることができました。

Q5「マリンアクティビティ自体」

- ・仰向けで浮く気持ち良さ
- ・サップとカヌーに乗れたこと。

Q5「体験中の心の動き」

- ・初体験でパニックに（笑）
- ・ビーチマットは重いけど、その重よりも、心は軽くウキウキできることがわかった。

Q6「移動交通手段」

- ・手動運転装置がレンタカーについていないので、自身で運転することが出来ない。
- ・車椅子だとタクシーに露骨に嫌な顔をされる時が多いので気を使う。
- ・宿までレンタカーが借りれなかった。手動装置付のレンタカーが島になかった。車椅子だとバスに乗れない。

Q6「移動の費用」

- ・車椅子ユーザーなので、自家用車での移動になります。高速代・ガソリン代・駐車場代だけでなく、何かと費用がかかる為、誰でも参加は厳しい様に感じます。

Q7については、その他肯定的意見として、「段差が少ない施設でとても助かりました。シャワールームや浴室にも手すりがついていたり、車椅子でも利用できそうなスペースがあって安心して利用できました。」との意見があった。

Q8「その他」

- ・チャレンジすることに様々な不安を持っていることもあります。出来る限りの、情報提供があれば嬉しいと思います
- ・クリアポート、また、別なアクティビティー参加において、障害をもつ方が少しでもきつくない（姿勢）方法があればいいですね。

マリナクティビティ指導に関するアンケート結果報告

目的

本アンケート調査の目的は、障害者を受け入れ、指導した経験のあるマリナクティビティ指導者が、指導を通して感じたことや受けた影響について明らかにすることである。

方法

1. 調査対象者：マリナクティビティ指導者 38 名（男 25 名、女 10 名、不明 3 名）
2. 調査時期：2020 年 8 月～2021 年 9 月
3. マリナクティビティ指導者に協力を依頼し、個別にアンケート用紙を配布し実施した。
4. 調査項目：5 件法（1：当てはまらない～5：当てはまる）による質問 15 項目及び自由記述による質問 6 項目からなる質問紙を用いた。詳細は資料のとおり。

表 1 各質問項目に関する平均値・標準偏差

質問項目	平均値	標準偏差	n
1.参加者一人一人の身体的特徴を考えるようになった	4.78	0.48	36
2.参加者への説明（指導）において、工夫するようになった。	4.67	0.71	36
3.障がいのある人を支援することで、喜びを感じるようになった。	4.69	0.57	36
4.障がいのある人を支援するのは責任が重いと感じる。	3.89	1.10	36
5.普段から障がいがある人の生活に興味を持つようになった。	4.49	0.65	35
6.障がいのある人もない人も感動する体験をしてほしいと思うようになった。	4.89	0.31	36
7.今後、障がいのある人のマリナクティビティは広がると思う。	4.69	0.62	36
8.障がいのある人との触れ合いであなた自身に成長があった。	4.61	0.59	36
9.障がいのある人への見方や理解が深まった。	4.64	0.58	36
10.マリナクティビティをするうえで、障がいがあることは大きな困難になると思う。	2.97	1.04	36
11.今後も、さまざまな障がいのある人を受け入れたいと思う。	4.56	0.76	36

12.参加者の人と十分にコミュニケーションが取れた。	4.23	0.72	35
13.指導するうえで、参加者の家族や引率者と連携・情報共有ができた。	4.17	0.88	35
14.普段からあなたが大切にしている想いや、考え方を参加者に伝えることができた。	3.75	0.83	36
15.障害のある人への指導をとおして、指導者としてのスキルが向上した。	4.03	0.90	36

この結果から、マリンアクティビティ指導者の多くに対して、障がい者への指導が、以下のような感想や、考えの変化を大いにもたらしている。

1. 参加者一人一人の身体的特徴を考えるようになった。
2. 参加者への説明（指導）において、工夫するようになった。
3. 障がいのある人を支援することで、喜びを感じるようになった。
5. 普段から障がいがある人の生活に興味を持つようになった。
6. 障がいのある人もない人も感動する体験をしてほしいと思うようになった。
7. 今後、障がいのある人のマリンアクティビティは広がると思う。
8. 障がいのある人との触れ合いで自分自身に成長があった。
9. 障がいのある人への見方や理解が深まった。
11. 今後も、さまざまな障がいのある人を受け入れたいと思う。

また、これらの項目ほどではないが、点数の平均値の高かった項目として、次のような項目があった。

- 4.障がいのある人を支援するのは責任が重いと感じる。
- 12.参加者の人と十分にコミュニケーションが取れた。
- 13.指導するうえで、参加者の家族や引率者と連携・情報共有ができた。
- 14.普段からあなたが大切にしている想いや、考え方を参加者に伝えることができた。
- 15.障害のある人への指導をとおして、指導者としてのスキルが向上した。

これらの項目に関しては、平均点が4点前後となっており、概ね満たしているものの、やや課題が残ると考えている指導者もいることが推察される。

最後に、10.の項目に関しては、平均値が2.97と最も低く、障がい者への指導を経て、多くの指導者が、障がいがあることはマリンアクティビティに参加する上で困難をもたらすとは言えないと考えていることが推察された。

次に、自由記述の質問への回答について検討する。自由記述については、回答の内容をカテゴリに分類し、分析を行った。各質問において得られた主なカテゴリを、回答した人数が多かった順に以下に示す。

表2 質問項目と得られた主なカテゴリ

<p>Q1:障がいのある方にマリンアクティビティを指導してよかったと思う点はどのようなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お客様の笑顔・喜び」20件 ・「サポートできる喜び」6件 ・「一緒に楽しめる、達成感を得られる」5件
<p>Q2:障がいのある方にマリンアクティビティを指導する上で困ったことはありますか。それはどのようなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「身体障害のサポート」8件 ・「障害に関する知識不足」5件 ・「コミュニケーション」5件 ・「体調管理」3件
<p>Q3:健常者を中心としたマリンアクティビティの指導と、障がいのある人を中心としたマリンアクティビティ指導の大きな違いは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「身体障害に起因する違い」10件 ・「体調・安全管理」7件 ・「障害程度に応じた個別対応」3件 ・「チームワーク重視」2件 ・「コミュニケーション」2件 ・その他、「人的人数が必要」等1件
<p>Q4:障害のある人への指導を通してあなたが成長できたと感じることはありますか。それはどのようなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「視野の拡がり」12件 ・「相手の心を押し量る力」6件 ・「インストラクターとしてのスキル向上」5件 ・「障がい・障がい者の理解」3件
<p>Q5:障がいある人を指導するうえで気を付けたことはどのようなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安全管理」14件 ・「できることは自分で」6件 ・「ニーズの把握」5件 ・「コミュニケーション」5件 ・「障がい特性に合わせた対応」4件
<p>Q6:指導の中で心に残ったエピソードはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多岐に渡るため、主なものを後述する。

次に、各カテゴリごとの主な回答の内容を記す。

Q1「お客様の笑顔・喜び」

・初めて家族揃って海に来た（それまではお子さんが足に障がいがあり誰も海に行こうと言い出せなかった）という方の喜ぶ顔を見ることができたこと。

・「できない」が「できた！」に変わったときの笑顔（本人、家族、全ての方々）でやってよかったと思いました。

Q1「一緒に楽しめる、達成感を得られる」

・一緒にマリンアクティビティを体験することによって、一緒に楽しめたこと。

・一緒に達成感を得られること。

Q1「サポートできる喜び」

・普段は体験できない事を少しサポートしてあげることで、非日常体験や新しい発見の手伝いができること

・自分が少しお手伝いをすることで障がいのある方ができることが増やすことが出来た事

Q2「身体障害のサポート」

・車椅子からカヌーやサップへの移乗時体格の大きい方へのサポートの仕方が難しかった。

・船への乗り降りと水面からの引き上げ

Q2「障害に関する知識不足」

・個々の障がいについてマニュアル的な決まりのないこと。その都度その場の対応が必要になること、それに対するスキルや知識のなさに困る。

・重度の障がいのある方が来られた時にほとんど対応ができなかった。＝現場にある程度の専門スキルを持った人が必要な場面がある。

Q2「コミュニケーション」

・コミュニケーションが取れない、取りづらい人との接し方が分からない。

・聴覚障がい者とのコミュニケーションで、特に先天性の方は言語や日本語についての認識がそもそも違っていたりするので、手技の伝達や安全管理の共有等について、正確に認識を合致させることが難しい。

Q2「体調管理」

・ゲストの体調で安全にマリンアクティビティが開催できないと判断した時

・体温調整

Q3「身体障害に起因する違い」

・通常気にしないことが、大きな問題になることがある。ボートダイビング希望で船に上がることが困難だった。当たり前がそうでない。

・行動可能範囲が違うこと

Q3「体調・安全管理」

- ・事前の体調の確認、指導中の体調の確認、指導後の体調の確認
- ・健常者の方の時も影響はありますが、天候不良の時は、障害のある方の場合には早い段階で中止の判断をすること。
- ・長時間トイレに行けない場合、下半身マヒのゲストだと尿意などを感じない方も多い為、トイレのタイミングに気をつけないといけない。
- ・ライフジャケットやウェットスーツなど水面で浮力となるものを着用してもらうだけでは安全を確保できないこと

Q3「障害程度に応じた個別対応」

- ・何ができて何ができないのかの把握（身体的なこと知的なこと）
- ・どこまでのアシストが必要か障がいにより違うので、ざっくりの指導では難しい

Q3「チームワーク重視」

- ・障がいのある人と中心としたアクティビティ指導は、健常者中心の場面よりもより一層お互いの信頼関係とチームワークが求められる

Q3「コミュニケーション」

- ・コミュニケーションに制限があること

Q4「視野の拡がり」

- ・可能性や方法についての知識が広がった。こんな人もこんな方法で工夫すればこんなことができると知った。なので、価値観は広がったと思います。
- ・かたよった考えに気づいた。多様な考え方を持つようになった。自身の子育てや親のことにもみんな同じだと感じる。

Q4「相手の心を推し量る力」

- ・ゲストが何を求めているか（何を手伝って欲しいか、何を感じているか）ということに敏感になれた
- ・障害のあるなしに関係なく、相手が何を求めているか、何をストレスに感じるか等を読み取ってあげられること。

Q4「インストラクターとしてのスキル向上」

- ・よりわかりやすく伝えるスキル
- ・水面でのダイビング機材の脱着スキルが向上したと感じました。
- ・参加者の出来る範囲のアクティビティを提案し、実施できたこと。

Q4「障がい・障がい者の理解」

- ・障がいのある人だけでなくその周りの人たちの気持ちが少しだけわかるようになったと思います
- ・障がいがあっても普段通り接すればいいということ。配慮は必要だけど遠慮はいらぬ。

Q5「安全管理」

- ・感覚がない部分のケガ、骨折など。

- ・体の自由は当然であるが体温の低下を気をつけて、長時間にならない様に
- ・水中での足の位置と体温調整

Q5「できることは自分で」

- ・自分でできることはできる限り自分でやっていただくように気をつけています。
- ・必要以上に手伝うこと、特別扱いはしないように気をつけています。

Q5「ニーズの把握」

- ・本人の目的（理由）を聞き、何ができたら満足してもらえるか。
- ・好きなこと嫌いなことを聞くこと

Q5「障がい特性に合わせた対応」

- ・事前に情報を手にしてシュミレーションしておくこと
- ・健常者での当たり前が、当たり前ではないところ。行動範囲など。

Q5「コミュニケーション」

- ・コミュニケーションをよくとるようにしている。
- ・返事とは違う思いを持っているということ。
- ・思いもよらない部分でお困りであったり、雰囲気不要と感じた手助けが実は必要であったりしたので、率直に尋ねるようにしてみようと考えました。

Q6については、多岐に渡っていたため、いくつかを抜粋する。

- ・90歳の誕生日に海水浴や15年、18年ぶりの海水浴を体験しました
- ・障がいのある人もない人もみんな笑顔で楽しめたこと
- ・参加している方（障がい者）を家族の方が見学して涙を流していたこと「私たち家族は、海や川は一生諦めていました。そんなことないのですね」というメッセージ
- ・足が不自由（片足義足）な方が体験ダイビングをされた時にサポート有りではあったが片足でフィンキックをしてしっかりと進むことができたこと
- ・海に入り自分で泳ごうとしている姿
- ・脳麻痺になる前に小笠原などで海遊びしていた。そこから何年ぶりかの海。そこでスノーケルをくわえられるかの不安を乗り越え「海入れただけで幸せです」といつてくれたこと。この旅行にける想いが事前にお話聞くことで深くわかる。
- ・できないをできた時の笑顔
- ・一緒に泳いでいて、てんかんの発作が出て、障害を持たれているお母さんが冷静に対応したこと。
- ・体験ダイビング中に下半身麻痺のはずが少し動かしていたことに驚きました。
- ・海の中で下肢を動かし、マスク越しに楽しそうだった。又、奥様のご主人の水中映像を見て、喜んでくださったのがとても印象的でした。
- ・脳死に近い息子と海水浴に来られたお母さん。「この子は名にも反応が見えなくても絶対何かを感じているんだ」といつて息子にいろんな体験をお渡ししていた。素敵な親子の絆を感じた。

- ・ 障害者ゲストのお母様が何とかして息子さんを海で遊ばせてあげたいという強い気持ちに少しでも協力することができたこと。
- ・ 付き添いの方が探しに探して、ここなら体験できるかもと希望を持って来てくれたと聞いたとき、とてもうれしかったですし、きもちがたかぶりしました。
- ・ 満面の笑顔。
- ・ "リクエスト通りのものを紹介できて喜んでもらった点、ゼログラビティで障害者の方へどンドンライセンス取ってもらいたいと言ってもらった点"
- ・ 久しぶりにお子さまや奥様と一緒に遊びを共有することが出来て喜んでもらったこと。